

学園関係資料調査 書家・上條信山と松本市美術館「上條信山記念展示室」

著名な書家であり書道教育者であった上條信山（1907－1997）は、大東文化学院本科及び高等科を卒業した本学同窓生である。また、1952（昭和27）年に大東文化大学に書道講座が選択科目として設置されると非常勤講師として書道科教育法等を担当するなど書道教育に貢献、戦後大東書道の礎を築いた一人でもある。昭和57年3月に退職するまで大東の教壇に立ち続け、また書道部の活動にかかわるなど、30年間にわたり大東文化大学の書道教育に貢献した。その生涯は書家としての活動が中心ではあったが、教育者として戦後の初等中等教育機関における毛筆習字教育改革の中で活躍したほか、東京教育大学（現在の筑波大学）教授として長く書家育成に携わった。

信山は、大東文化学院に学んだ思い出を「老荘思想に特に関心のあった私には、わけても小柳先生の老荘学の講義が印象深い」「老荘の学問を自分なりに深め、かつそれを書の思想と結びつけて考えてみたくなった」と振り返り、また大東文化大学での教育体験を次のように回顧している。「実に三十年の長きにわたって大東文化大学に勤めたことになる。その間の思い出は本当に書きつくせぬものがあるが、何といっても多数の立派な先生方や、個性豊かな学生達にめぐりあえたことが最大の喜びであった。」（上條信山『硯上の塵―信山自伝―』）

信山の出身地である長野県松本市の美術館内には、「上條信山記念展示室」が併設されている。晩年になって「作品を末永く保存し、今後の書教育および芸術教育に役立ててほしい」として長野県信濃教育会へ寄贈していた作品と、逝去後自宅に保管されていた作品とをあわせて、遺族より松本市へ一括して寄贈されたことを機として美術館内に展示室が設置された。同展示室では、多くの信山作品を定期的に入れ替え順次公開しているほか、信山の生前における書を通じた日中友好親善活動や書教育の発展に寄与したことなどを伝えている。

信山作品は、同美術館が所蔵しているもののほか、長野県内をはじめとして日本国内外にも数多く点在している。それらの所在や状況も松本市美術館が調査しまとめるなど、積極的な作品保護および信山研究活動が続けられている。

（大東文化歴史資料館 浅沼薫奈）



記念展示室内



信山筆「国宝松本城天守」



県歌「信濃の国」を揮毫する信山



長野県内相森中学校に置かれた石碑